

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成30年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
30-3	学習型モニタリング・交通流動予測に基づく観光交通渋滞マネジメントについての研究開発	東京大学大学院 教授 布施 孝志	B

<研究の概要> ※成果報告レポートより引用

観光渋滞エリア内の交通流動の改善を実現するため、学習型の交通状態モニタリング・予測手法、および適応型交通需要マネジメントに関する開発を研究目的として、観光交通イノベーション地域等でのデータに適用し実効性の確認実施する研究開発。

<事後評価結果>

- ・各テーマに関して学術的成果を挙げ、かつ、全体の統一性にも配慮している。ただ、各々の成果がまだ試行レベルであり、道路政策の質の向上に真に役立つかどうかの判断が十分にできない。
- ・実証実験ができなかったことが残念であるが、シミュレーション等により十分な研究成果となったと考える。
- ・観光渋滞マネジメントへの効果そのものを離れ、個別技術、手法、知見としての成果は得られていると考える。
- ・社会実験はコストや調整が困難であるものの、シミュレーションや実験室実験に留まらない実証を進める必要があると考える。
- ・計測や予測に関する研究成果の結果が他の先端的な事例と性能比較がされておらず、十分に評価できない。
- ・鎌倉におけるプライシングの実証実験を前提に構成された研究課題であったため、主テーマに十分迫ることができずに残念である。
- ・このことから、研究目的は概ね達成され、研究成果があったと評価する。

<参考意見>

1. 鎌倉のような大都市近郊観光地では、発地(自宅)での意思決定がきわめて重要な意味を持つ(車で出発してしまうと行動変化が困難)。予測モデルの変数として、降水量や社会イベントだけでは不十分である。観光地の特性を考慮したモデル化を期待したい。
2. テーマ3については経済学な深掘りをした方が良いと思われる。
3. AIは、精度は高いが、計算部分がブラックボックスになることへのリスクもある。今後の課題として挙げられていたが、これを説明可能なAI手法が存在するのか疑問である。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第43回新道路技術会議において審議したものである。